

編集・発行
町田市男女平等推進センター
運営委員会
町田市原町田4-9-8
町田市民フォーラム3階
Tel. 042-723-2908



育児をする男

「イクメン」を応援しよう！

改正育児・介護休業法施行

「イクメン」とは、子育てに積極的にかわるうとするお父さんのこと。そんな男性が増えています。これまで母である女性の領域とされがちだった家事・育児ですが、父である男性が積極的に関わることは子どもの成長にとって望ましいだけでなく、家族の絆を強め、また男性にとってもかけがえのない経験となるものです。こうした男性の育児参加を広げようと、6月末に「改正育児・介護休業法」が施行されました。主な改正ポイントは、

- 夫婦ともに育児休業を取る場合は、取得できる期間が「子どもが1歳になるまで」から「1歳2ヶ月になるまで」に延長された。
- 出産後8週間以内に夫が育児休業を取った場合、2度目も取れるようになった。
- 3歳までの子どもがいる従業員向けの短時間勤務の制度化を義務づけた。（従業員100人以下の会社の施行日は平成24年6月30日予定）

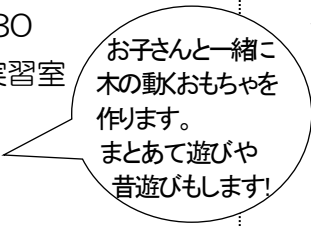
昨年度の育児休業の取得率は女性が85・6%、男性が1・72%。育児を希望する男性は30%のほりますが実際には取得できていないことがわかります。企業がワーク・ライフ・バランスの一環として男性の育児参加に積極的に取り組むことは、従業員の満足度や意欲を高め、業績向上にもつながっていきます。

石坂丈一市長の著書「忙しいパパでもできる！子育てでなんとかなるブック」によると、「仕事が忙しい父親にこそ、少しの発想の転換で時間を作れることを知ってほしい。子どもとふれあうことで自らも心豊かになり、家族の幸せが広がり、明日への活力がみなぎってくる」と24章の子育てアドバイスが紹介されています。市長は約30年前、育児に積極的に関わった元祖イクメンだったのです！

父親の育児参加事業

「お父さんといっしょに作って遊ぼう！」

募集：4歳以上の未就学児とお父さんのペア 各回16組
日時：9月26日（日）①10:00~12:00、
②13:30~15:30
会場：町田市民フォーラム 3F多目的実習室
講師：鎌上 茂樹さん（森遊クラブ代表）
参加費：300円（材料費）
申込み・問合せ 男女平等推進センター 042-723-2908



登録団体企画講座

「ドイツの子育て 日本の子育て」

日時：11月5日（金）10:00~12:00
会場：町田市民フォーラム 4F 第2学習室
講師：中山 淳子さん（龍谷大学名誉教授）
定員：48名

申し込み方法は、
広報まちだ10月1日号、
町田市ホームページでご案内します。



登録団体企画講座

「ひとりじゃないから」
～がんばっている女たちに送る歌とエール～

日時：11月20日（土）14:00~16:00
会場：町田市民フォーラム 3F 活動室
定員：女性25名

歌手 NAKOさんの歌とお話をお聞きし、女性同士で心の思いを語り合ってみませんか。

申し込み方法は、広報まちだ10月21日号、
町田市ホームページでご案内します。

男性のための料理教室 7月10日実施

30分でできる朝ごはん

講師：町田地域活動栄養士会

料理経験のない男性を対象にした料理教室です。参加する動機は様々でしたが、お米のとぎ方、ご飯の炊き方から教わり、意外と新しい発見も！

自分で作った料理は格別と、料理が身近に感じられた教室でした。



開催された講座から

パパとまぜまぜ・コネコネ 7月31日実施

簡単おやつづくり教室

講師：町田地域活動栄養士会

子どもにアドバイスしたり、根気強く見守る父親。逆に「パパそれ違うよ！」と指摘される姿も。父子のほほえましい様子です。

夏休みにお父さんの活躍する機会が増えました。



映画でトーク

新刊書紹介

図書の貸し出しやDVD・ビデオの視聴ができます！

「田村亮のパパ日記」子どもの背中を見て親は育つ

田村亮 祥伝社

お笑い芸人の著者が、「よその家のパパはもつと子育てにかかわっている」と妻から言われ肩身の狭い思いをしたことがきっかけで、二人の息子の子育てに体当たりで取り組む日々をつづったのが本書。父親として成長する姿が伝わってきます。「子育てに自信のある親は少ない。パパとママがこの本を読んで笑いながら子育ての話をしてもらえれば嬉しい」と著者。

「なぜフランスでは子どもが増えるのか」

中島さおり 講談社現代新書

フランスでは「子どもを持つても女性が働き続けられる」「家庭政策が充実している」「婚外子が多く差別されない」等が出生率の高い理由として知られています。本書はさらに「恋愛文化の違い」等に触れながら、カップルの生活が充実し、女性の性にまつわる不利益を改善し、母親の負担を軽減した結果、女性が子どもを生みたくなる国になったことを教えてくれます。文化の違いを超えて日本でも大いに参考にできると思いました。

「タフラブという快刀」関係の息苦しさから自由になるために

信田さよ子 梧桐書院

アルコール依存、DV、ひきこもり等のカウンセラーである著者が勧める「タフラブ」とは「手放す愛」「見守る愛」のこと。その対極にあるのが、従来「美德」とされてきた「尽くす愛」「耐える愛」。わが身を犠牲にして尽くす愛は、実は相手を世話することで相手の力を奪い、相手の問題解決を棚上げしてしまう「共依存関係」になると言います。タフラブを実行するのは「外科手術にも似て勇気があること」とありますが、家族をはじめ人間関係の問題解決には不可欠だと感じました。

センターには素晴らしい映画が沢山あります。大きなスクリーンで観て感想などを話し合しましょう。無料です。

* 9月21日(火) 14:00~

「父と暮せば」

04年(日本)99分

ヒロシマ原爆を背景に描く、心温まる父と娘の物語

* 10月19日(火) 14:00~

「ユキエ」

97年(日本)93分

初老をむかえたアメリカ人の夫と、アルツハイマーという難病におそわれた日本人の妻の夫婦愛のドラマ

* 11月16日(火) 14:00~

「未来を写した子どもたち」

04年(米)85分

売春窟で生まれ育った子どもたちが、カメラを通して外の世界へ飛び出していく姿を追ったドキュメンタリー

上映場所：市民フォーラム

活動室(3F)

「女性悩みごと相談」



☆ 女性のための身近な相談室として受け付けています。一人で悩まないで相談してみませんか。

受付時間…月・火・木・金・土曜日 9:30~16:00

水(第3水曜日を除く) 13:00~20:00

(日・祝日、年末年始はお休みです)

電話番号…042-721-4842 (相談専用)

